



2026年9月4日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10 階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

末梢神経障害に対する肝細胞増殖因子 (HGF) の薬効評価試験に関する 横浜市立大学との共同研究開始のお知らせ

当社は、公立大学法人横浜市立大学（神奈川県横浜市）と末梢神経障害に対する肝細胞増殖因子 (HGF) の薬効評価試験に関する共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

化学療法誘発性末梢神経障害 (Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy: CIPN) は、がん薬物療法に伴う代表的な副作用の一つであり、抗がん剤によって神経細胞などが障害され、手足のしびれ、痛み、感覚鈍麻などの症状を呈します。これらの症状は、化学療法中だけでなく、がん寛解後も長期にわたり持続する場合があります、がん患者及びがんサバイバーの生活の質 (QOL) に大きな影響を及ぼします。現在、CIPN に対する標準的な予防法や治療法は確立されておらず、アンメットメディカルニーズの高い疾患領域とされています。

このたび、当社は横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科 佐藤拓輝講師らと共同で、CIPN に対する HGF の薬効を評価する研究を実施します。本共同研究を通じて HGF の有効性が示されることにより、CIPN に対する新たな治療戦略の創出につながることを期待されます。

なお、本件による当社の業績へ与える影響について、研究開発費に占める割合は軽微です。

以上

化学療法誘発性末梢神経障害 (Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy: CIPN) について

抗がん剤治療に伴って生じる末梢神経障害であり、手足のしびれ、痛み、感覚鈍麻などを特徴とします。特に白金製剤、タキサン系製剤、ビンカアルカロイド系製剤などでみられ、多くのがん種の治療において問題となる副作用です。CIPN は患者の日常生活動作や歩行機能に影響を及ぼし、生活の質 (QOL) を大きく低下させることが知られています。一方で、現在、有効な予防法や根本的な治療法は限られています。

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾

大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之センター長及び同大学医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果の可能性は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象にオレメペルミン アルファ（組換えヒト HGF タンパク質の国際一般名称）の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、オレメペルミン アルファのレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相追加臨床試験において症例組入れを進めるとともに、声帯癬痕を対象とする第Ⅲ相臨床試験では症例組入れを完了し、経過観察を継続しています。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。